



ふるさと

校長 千明 勉

私は、群馬県渋川市の出身です。大学に進学するまで渋川に住んでおりました。今も、年老いた両親がのんびりと暮らしています。渋川市は群馬県のほぼ中央、関東平野の北端、三方を赤城山、榛名山等に囲まれ、利根川と吾妻(あがつま)川が合流する、自然豊かなまちです。周辺には伊香保、草津など日本の名湯も数多く点在し、日帰り温泉も充実するなど、ふるさとの自慢の一つです。小学校の運動会は紅白対抗ではなく、例えば赤城団、榛名団など山対抗で競技を競い合い優勝を目指しました。また、「上毛(じょうもう)かるた」も有名で、正月に学校でかるた大会を行うなど、小学校時代を群馬で過ごした人は、ほとんど全ての読み札を暗記しているほどです。

このたび群馬県は、地方移住に関する情報を提供する認定NPO法人ふるさと回帰支援センターによる「移住希望地」調査において、4年連続で首位だった静岡県を抜いて、全国1位になりました。理由としては、生活費や教育費の割安感に加え、東京へのアクセスのよさや自然環境の豊かさ、そして災害の少なさが評価されたようです。確かにその通りだと納得する一方で、なんでこれまで評価されてこなかったのか不思議なほどです。県知事を中心に、自治体として積極的にアピールしてきた成果で、関係者の皆様に敬意を表します。ふるさとを離れ、いくつかの土地で生活し、現在さいたま市に住んでいますが、ふるさとである群馬が注目されることはやっぱりうれしいものです。

ところで、3月上旬に行われた6年生を送る会で、6年生の出し物の一つとして、アイドルグループ嵐が歌った「ふるさと」を合唱しました。この曲は2010年に制作された楽曲で、2012年にNHK合唱コンクールの課題曲になり、2016年の熊本震災の際にふるさと応援ソングとして歌い継がれてきました。この曲の2番の歌詞は、以下のとおりです。

朝焼け色の空に またたく星ひとつ 小さな光が照らす 大いなる勇氣
なにげない日々の中に 明日の種を探せば 始まりの鐘が響く いま 君のために
雨降る日があるから虹が出る 苦しみぬくから強くなる 進む道も夢の地図も すべては心の中にある
助け合える友との思い出を いつまでも大切にしたい 進む道も夢の地図も それは ふるさと
巡りあいたい人がそこにいる やさしさ広げて待っている 山も風も海の色も いちばん素直になれる場所
忘れられない歌がそこにある 手と手をつないで口ずさむ 山も風も海の色も 君の ふるさと
僕の ふるさと ここは ふるさと

昨日、本校第135回目の卒業証書授与式におきまして、180名の卒業生に卒業証書を授与いたしました。卒業生はそれぞれの中学校に進学しますが、引き続き、ここふるさと春岡で学び、学校生活をエンジョイします。いつかこのふるさとを離れ、世界や日本の各地で活躍する子どもも出てくることでしょう。また、ふるさとの発展のために、ずっとふるさとに残って尽力する子どもも出てくることでしょう。誰にとっても、どんな状況になっても、ここ春岡は卒業生にとって永遠のふるさとです。上の「ふるさと」の歌詞にあるように、「進む道も夢の地図も」ふるさとにありますので、保護者や地域の皆様、引き続き本校の卒業生を温かく見守ってくださいますようお願い申し上げます。

今年度も本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、本当にありがとうございました。